

下北山村「道の駅」基本計画 概要版

2025年3月

奈良県 下北山村

1. はじめに

■道の駅整備の目的と背景

本計画地である下北山スポーツ公園は、自然スポーツ型の余暇観光施設として整備されましたが、近年、社会経済情勢等の影響や施設の老朽化等により、施設全体の利用者は減少してきています。

今後、きなり館レストランや売店等が一体となった魅力ある施設に改善していく必要があり、またキャンプ場は、コテージやバンガローの積極的な利用促進を図っていくことが重要です。

このほか、下北山村の観光資源としては、前鬼・不動七重の滝等に代表される自然やさくら祭などのイベント、釣り客に人気のダム湖のバスフィッシングなどがあり、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録もあり、地域の自然がより注目を浴びるようになり、いっそうの観光振興が求められています。

このような背景や地域特性等を踏まえ、本計画地の環境整備を進め、今後もより振興を図っていくため、道の駅として整備することとします。

■基本計画の位置づけ

本計画は、「第三次下北山村総合計画」において『スポーツ公園の整備充実と道の駅の設置』として位置づけられ、「第2期下北山村まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、『おもてなし対応の施設整備と人材育成－道の駅の整備』として施策に位置づけられています。

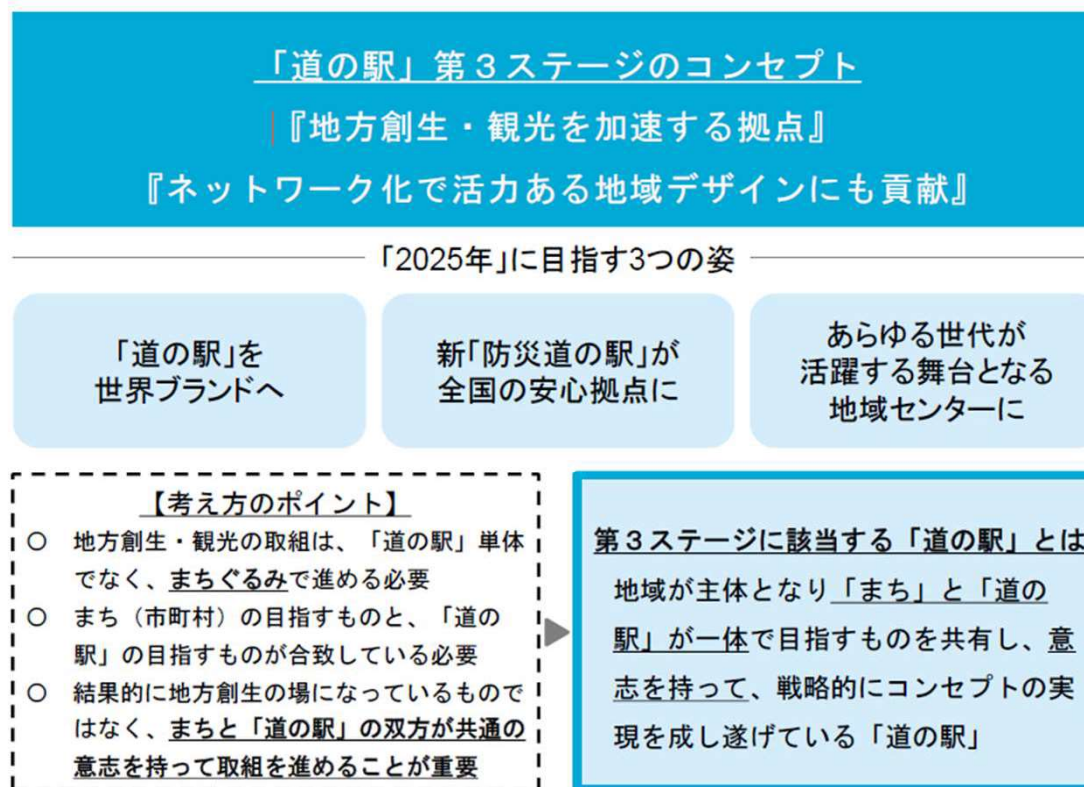
2. 道の駅の制度と動向

■道の駅に求められる機能

休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



■道の駅の第3ステージ(2020年以降)の定義



3. 下北山村の現状 ①立地と人口

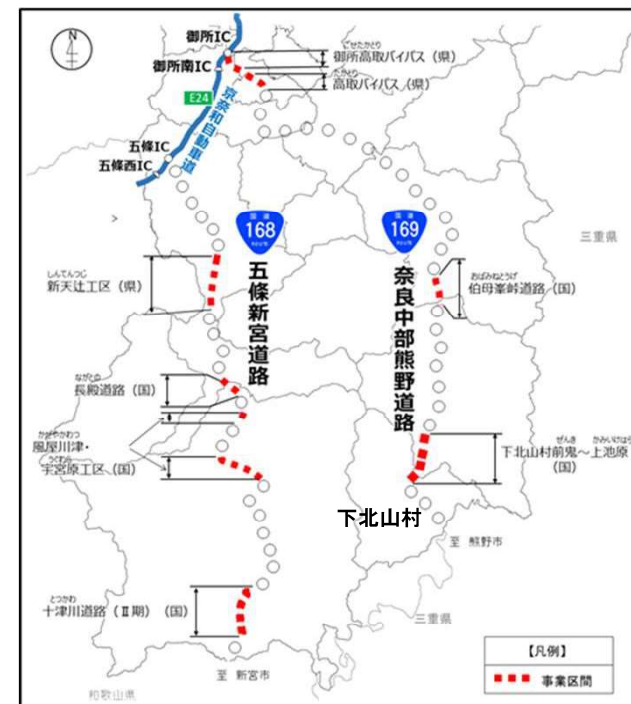
- ◆下北山村は奈良県東南端に位置し、北部は上北山村、南部は三重県熊野市、和歌山県北山村、西部を十津川村に接しています。
- ◆山中にありながら海にも近く、大阪・奈良方面から、熊野に行く際の海の玄関口となり、尾鷲・熊野方面から、大台ヶ原などに行く際にも玄関口となります。
- ◆地勢は四方を山に囲まれ、西境には、平成16年に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる大峯奥駈道があり、村内の約半分が吉野熊野国立公園に指定されています。
- ◆人口は、約800人



3. 下北山村の現状

②道路環境

- ◆国道169号は、高規格道路「奈良中部熊野道路」として位置付けられるとともに、重要物流道路の候補路線に指定されています。
- ◆国道169号・奈良中部熊野道路は、京奈和自動車道等と一体となって紀伊半島アンカールートを構成し、紀伊半島全体の強靱化を図るとともに、奈良県南部地域の地方創生を推進していくうえで必要不可欠な幹線道路となっています。
- ◆下北山村にとって、国道169号は京阪神と紀州地域を最短で結ぶ幹線道路であり、特に公共交通機関がなく、災害が発生した際の迂回路のない奈良県南東部地域の住民生活にとっては、まさに「命の道」となっています。



3. 下北山村の現状

③災害復旧

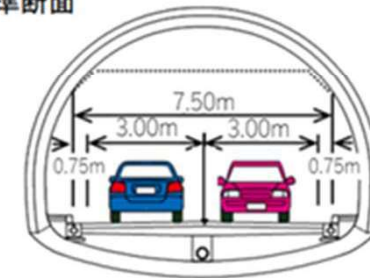
- ◆令和5年12月に、国道169号下北山村上池原において崩土被害が発生し、現在は奈良県において応急復旧され、仮橋での交互通行が可能です。
- ◆本格復旧については、国の権限代行による災害復旧事業として実施することになり、令和6年6月に別線トンネルルートが決定した。全長約2.8kmのトンネルが整備されることにより、下北山スポーツ公園への更なる利便性の向上が期待されています。



（構造諸元）

総延長：約2.9km
・土工：約0.1km
・トンネル：約2.8km

標準断面



出典：国土交通省近畿地方整備局公表資料（R6.10.4）より抜粋

3. 下北山村の現状

④観光

- ◆観光入込客数では、コロナ禍前は、アウトドア志向の高まりにより徐々に増えつつありましたが、コロナ禍で低下したものの、現在は、徐々に回復しつつあり、令和5年度で約11万人です。
- ◆県内の主要観光地について、北部エリアと比較し、中部・南部エリアの観光入込客数の伸び率が小さい状況にあり、京奈和自動車道全線開通時には、奈良県南部エリアは120分圏内となり、紀伊半島全体で広域観光エリアが形成されることが期待されています。
- ◆また、下北山村は生活圏として、紀伊半島南部の市町村（熊野市、御浜市、尾鷲市）との結びつきが強く、山間を抜けて海へ向かう観光周遊ルートその他、生活道路としても機能しています。

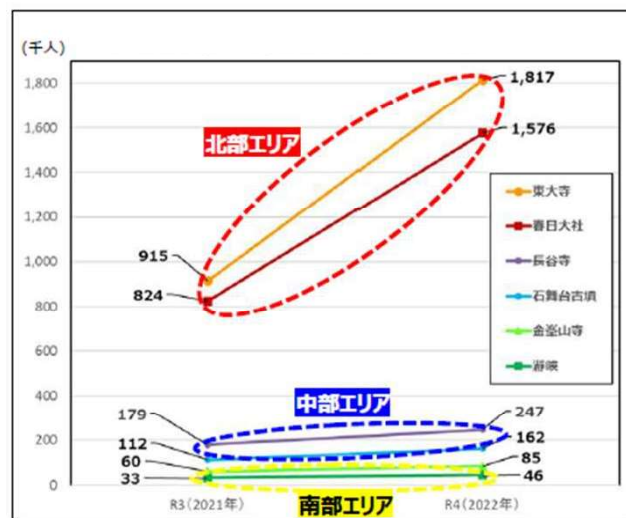


図 主要観光地のエリア別観光入込客数

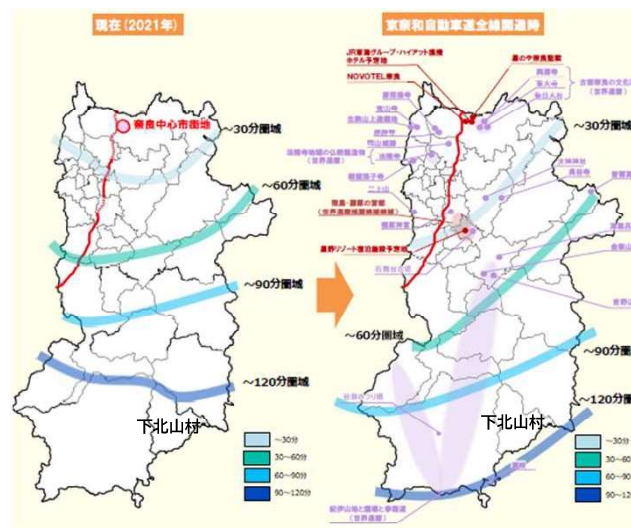


図 京奈和自動車道全線開通時の時間圏



図 紀伊半島のアンカールート

出典：第34回紀伊半島知事会議資料（R6.7.16）、令和7年度政府予算編成等に関する提案・要望（奈良県）より抜粋

3. 下北山村の現状 ⑤防災

- ◆下北山スポーツ公園は、「奈良県地域防災計画」(R5.2)において、重要物流道路(代替路・補完路)に接続することなどから広域防災拠点に位置付けられ、多目的グラウンドは、指定緊急避難場所に指定されており、緊急ヘリポートの発着場となっています。
- ◆現在は、奈良県において県南部地域の被災地へアプローチするための活動拠点としての展開が期待されています。



4. 計画地の概要

①公園の概要

◆下北山スポーツ公園は、ほぼ下北山村の中央部に位置しており、標高は約220mです。

◆池原ダムの西南側、旧河川敷を利用した約19万平方メートルの広大な敷地の中に、各種スポーツ施設が楽しめる下北山スポーツ公園があります。

○スポーツ施設：6施設
(サッカー等グラウンド、テニスコート等)

○宿泊・研修施設：6施設(定員：123名)

○集客施設：4施設
(温泉・飲食・販売施設)

○コテージ等：22棟(定員：161名)

○テントサイト：50区画

○平成の森バンガロー等：18棟
(定員：103名)

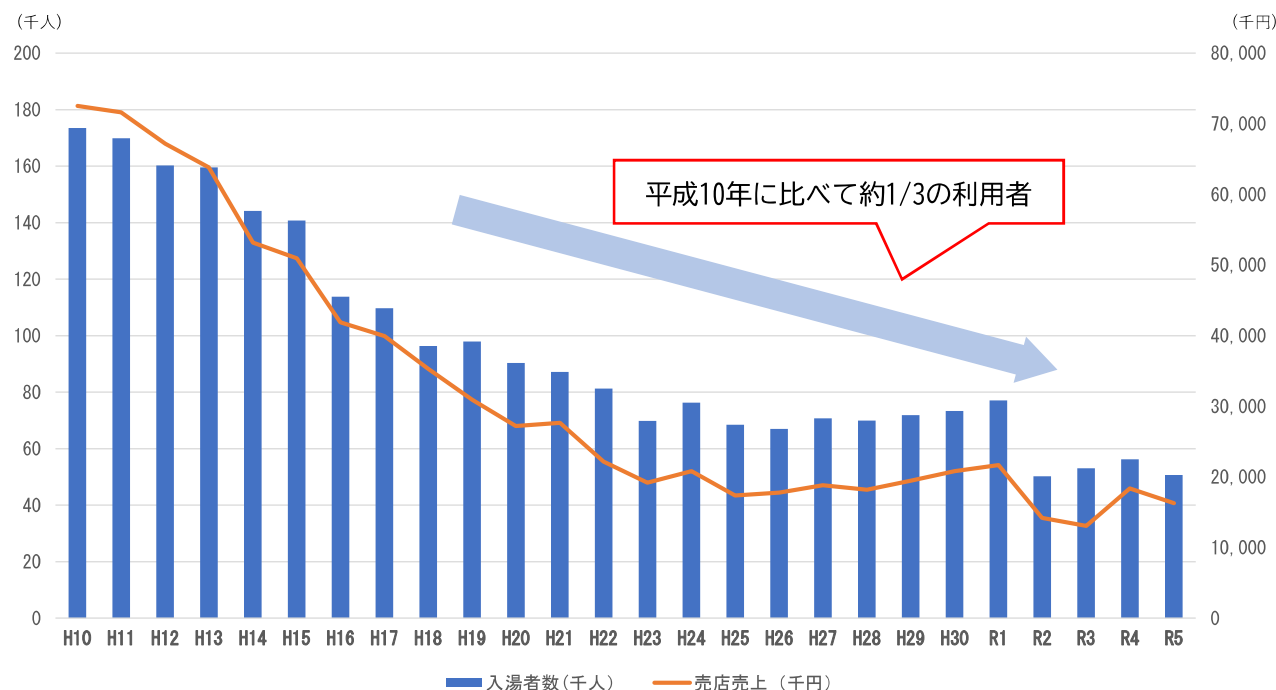


4. 計画地の概要

②公園の課題

■施設利用者の減少

- ◆下北山スポーツ公園には「きなり館（きなりの湯）」が整備されていますが、平成10年に比べ利用者が約1/3数に減少しています。



■施設情報の発信不足

- ◆村単独では、観光地としての魅力発信ができていません。
- ◆道路情報や観光情報が発信できる環境でありながら、きめ細やかな道路状況や観光情報を発信できていない状況です。
- ◆奈良県の南の玄関口として、広域的な道路利用者への観光案内情報が乏しいです。



図 来訪者への道路案内（標識、サイン）

5. 事例調査

①近隣の道の駅の概要

- ◆道の駅は、令和6年8月7日現在で、1,221駅が登録されています。そのうち奈良県内には17駅、隣接する和歌山県には36駅、三重県には18駅です。
- ◆そのうち近隣の道の駅としては、国道169号沿線に3箇所、国道168号沿線に2箇所、国道24号沿線に1箇所、国道311号に1箇所、国道42号に2箇所あります。
- ◆国道169号沿いの道の駅は山間地を移動する道路利用者にとって、休憩場所、情報収集場所として、重要な施設となっています。規模的には駐車台数は100台以下、トイレは20器以下と比較的小規模な施設が多い状況です。

位置	道の駅名称	施設概要	駐車台数	トイレ
R169 川上村	杉の湯川上	直売所、麺コーナー、毎日曜に朝市開催、温泉ホテル、レストランが隣接	54台 (大型4台、普通50台)	18器 (うち1器は多機能)
R169 上北山村	吉野路上北山	直売所、コンビニ、温泉が隣接	53台 (大型2台、普通51台)	18器 (うち1器は多機能)
R168 十津川村	十津川郷	コンビニ、そば処、足湯、毎日曜に朝市開催、屋台等	25台 (大型2台、普通23台)	16器 (うち1器は多機能)
R168 五條市	吉野路大塔	直売所、温泉、天文台、プラネタリウム館、本陣跡、郷土館、食事処、土産物屋、バンガロー、ロッジ、キャビンが隣接	24台	14器 (うち1器は多機能)
R169 北山村	おくところ	観光案内所兼筏下り受付、温泉、レストラン、売店、コンビニ、バンガロー、キャンプ場、ラフティング受付、ソフトクリーム屋が隣接	89台 (大型7台、普通82台)	15器 (うち1器は多機能)
R24 熊野市	熊野きのくに	直売所：土日祝日のみ営業	20台 (大型3台、普通17台)	8器 (うち1器は多機能)
R311 熊野市	熊野・板屋九郎兵衛の里	直売所、ラーメン店、熊野市役所紀和総合支社が隣接、熊野市紀和B&G海洋センターが隣接	41台 (大型3台、普通38台)	13器
R42 熊野市	熊野・花の窟	直売所、軽食コーナー、休憩所、資料コーナー、コンビニ隣接、国史跡「花の窟」隣接	28台 (大型3台、普通25台)	7器
R42 御浜市	パーク七里御浜	直売所、レストラン、ショッピングセンター併設（屋上ドッグラン、サイクルラック、スポーツジム、シャワー室）、ホテル隣接	280台 (大型14台、普通268台)	7器 (うち1器は多機能)

5. 事例調査

②参考となる道の駅の概要

◆温泉施設やキャンプ場の併設、アクセスが悪い山間地に立地するなどの類似点や、観光ゲートウェイや周遊観光促進、広域防災拠点としての工夫点がある事例の整理を行い、参考としました。

道の駅名称	位置	着目点	参考とする内容
こすげ	山梨県小菅村	・人口が同規模 ・アクセスが悪い山間地に立地	交通不便地に誘客する工夫
スプリングひよし	京都府日吉町	・ダム湖に隣接 ・アクティビティ施設が充実 ・キャンプ場を併設	滞在型の道の駅の工夫
よしおか温泉	群馬県吉岡町	・住民、観光客の両方が利用する温泉施設、スポーツ施設、飲食施設が存在	交流人口を増やす工夫
針・テラス	奈良県奈良市	・奈良県へのゲートウェイに位置する	観光ゲートウェイとしての工夫
宇陀路大宇陀	奈良県宇陀市	・まちの情報拠点として周遊観光コースを広報	周遊観光を促進する工夫
クロスウェイなかまち (R6. 11. 30開駅)	奈良県奈良市	・道路利用者や観光客、住民の安心できる避難場所	広域防災拠点としての工夫
てしお	北海道天塩町	・町の特産品の自動販売機導入 ・防災道の駅	町内特産物の24時間物販の工夫
パレットピアおおの	岐阜県大野町	・新鮮な野菜や特産品を自動販売機で販売 ・防災道の駅	町内農産物の24時間販売の工夫
おが	秋田県男鹿市	・地元食材を使った冷凍食品の自動販売機設置	地元食材を使った軽食の24時間販売の工夫

6. ニーズ調査

①来訪者アンケート調査

■調査概要

- 調査対象 : 下北山スポーツ公園への来訪者
- 調査期間 : 令和6年8月
- 調査方法 : 来訪者へのアンケート案内を行い、Web回答
- 回収結果 : 184通回答

■調査結果概要

- ◆訪問者の居住地は、大阪4割、奈良2割、東海地方1割の順でした。
- ◆訪問のきっかけは、WEB、動画を見て（47%）、知人・友人からの口コミ（37%）の順でした。
- ◆同行人数は、2～4人（60%）が最も多く、1人も16%存在しました。
- ◆滞在期間は、1泊2日～2泊3日が8割、日帰りは1割程度。
- ◆訪問回数は、2回以上のリピーターが過半数以上。
- ◆訪問の目的は、キャンプと温泉がほとんどを占めています。
- ◆満足度は、きなりの湯（58%）、キャンプ（56%）が特に満足度が高く、交通アクセス以外は全体的に満足度が高い状況でした。
- ◆次回の観光希望は、観光スポットに行きたい、レジャー・アクティビティ・スポーツを楽しみたい、自然で癒されたいの順でした。
- ◆地域の観光に足りないものは、便利な交通が一番多かったですが、買い物できる場所や飲食店が足りていない、閉店時間が早いなどの意見もありました。
- ◆道の駅に追加してほしい施設（機能）は、飲食店・カフェ（71%）、特産品販売コーナー（55%）、屋内休憩コーナー（40%）、観光・道路情報コーナー（26%）、車中泊できる駐車場（26%）、コインランドリー（19%）などがありました。

6. ニーズ調査

②住民アンケート調査

■調査概要

- 調査対象 : 下北山村住民
- 調査期間 : 令和6年11月1日～14日
- 調査方法 : 区長を通じて全世帯配布、回収ボックスでの回答又はWeb回答
- 回収結果 : 176票回答（有効回答者数：230人）

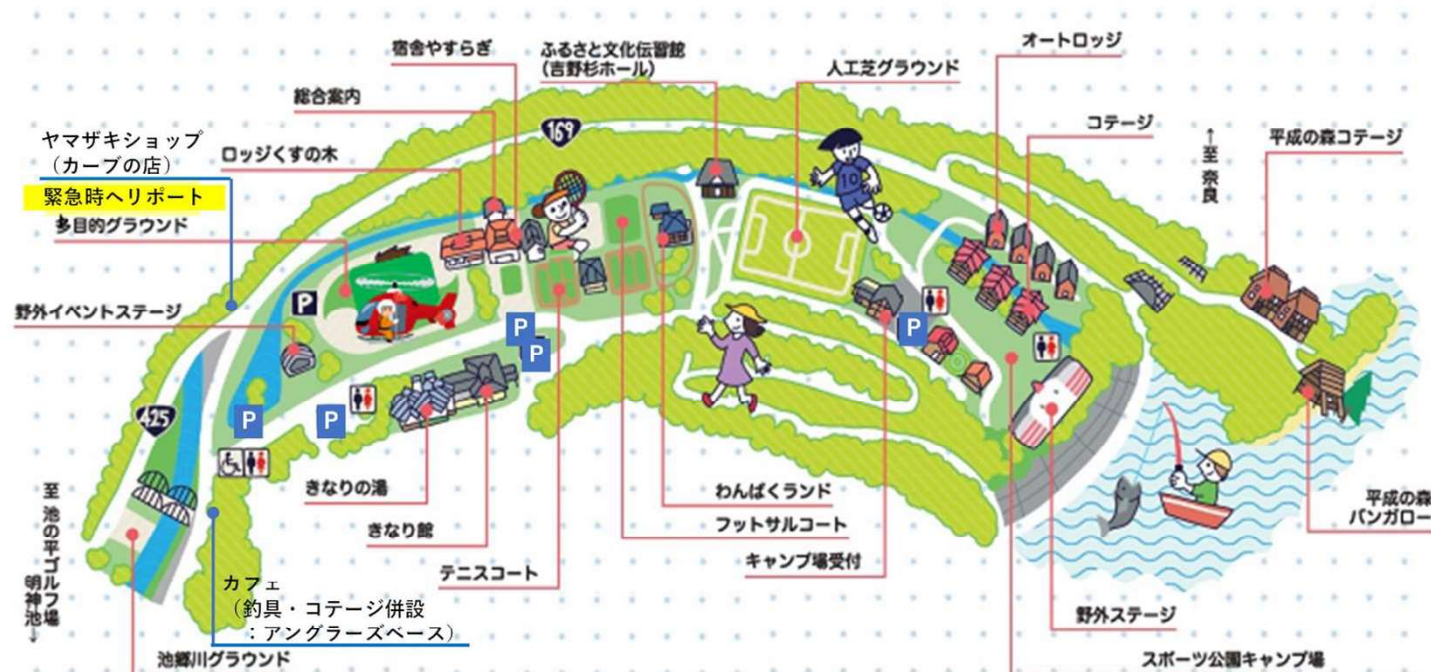
■調査結果概要

- ◆スポーツ公園を利用する目的は、**食事（きなり館）**が8割強と最も多く、次いで**イベント（桜祭・夏祭等）**が約8割、続いて**休憩・トイレ**が約7割、**温泉と買物（きなり館）**が約6割の順でした。
- ◆近隣の施設と比べて『魅力的』と感じているのは、**池原ダム（公園からの眺望）**と**イベント（桜祭・夏祭等）**が約5割と最も多く、次いで**温泉（きなりの湯）**が約4割の順でした。逆に『魅力的でない』と感じているのは、**売店（きなり館）**が約2割で多い状況でした。
- ◆追加してほしい施設（機能）は、**飲食ができる場所**が約6割と最も多く、次いで**特産品販売コーナー**が4割強、**観光・道路情報発信コーナー**と**コインランドリー**が約4割でした。
- ◆道の駅整備により期待される効果は、**過ごす場所や買い物をする場所が増える**が約8割で最も多く、次いで**来訪者が増える**が約7割、**新たな働く場や機会が増える**が約6割でした。
- ◆道の駅でやってみたいことは、**イベント運営等**（春夏以外のお祭り、音楽イベント、フリーマーケット等）、**飲食施設**（キッチンカー、軽食等）、**観光案内ガイド**、**教室やワークショップ**などがありました。

7. 施設の計画

①既存施設の概要

- ◆下北山スポーツ公園では、宿泊施設、温泉施設、スポーツ施設・遊び場、休憩施設（駐車場・トイレ）が既に整備されています。
- ◆周辺の道の駅と比較すると、施設面積が広く、様々な年齢（子ども～お年寄り）や利用者（観光客、住民）が楽しめる施設が集積しています。
- ◆また来訪者が利用する民間施設として、近接してコンビニ（ヤマザキショップ：カーブの店）とカフェ（釣具・コテージ併設：アングラズベース）があり、村内には民宿が点在しています。



7. 施設の計画

②現況施設の機能の整理

◆下北山スポーツ公園の既存施設を道の駅の基本3機能にあてはめて整理をすると、休憩機能については、駐車場は197台、トイレは81器と容量は十分ですが、バリアフリーに関わる内容は不十分な状況です。

機能分類	施設分類	施設の内容や容量	計
休憩機能	駐車場-1 池の前	駐車台数：42台	駐車台数197台 (大型：4台、普通：193台) ※全て24時間利用可能
	駐車場-2 商工会横	駐車台数：約25台	
	駐車場-3 合宿棟前	駐車台数：普通車37台	
	駐車場-4 きなり館前	駐車台数：普通車67台、大型4台	
	駐車場-5 キャンプ場管理棟前	駐車台数：普通車22台	
	トイレ(1) 朝市広場横	男：大1、小4 / 女：5 多機能：1	トイレ数81器うち多機能4器 ※61/81器は24時間利用可能 (うち多機能は全て24時間利用可能)
	トイレ(2) 商工会横	男：大2、小3 / 女：2	
	トイレ(3) テニスコートセンターハウス	男：大1、小2 / 女：2	
	トイレ(4) ふるさと文化伝習館	男：大1、小3 / 女：3	
	トイレ(5) キャンプ場管理棟	男：大1、小1 / 女：1 多機能：1	
	トイレ(6) キャンプ場管理等横	男：大1、小3 / 女：4	
	トイレ(7) キャンプ場ダム堰堤下	男：大2、小3 / 女：3	
	トイレ(8) キャンプ場ACサイト	男：大2、小3 / 女：3 多機能：1	
	トイレ(9) 合宿棟	男：大2、小3 / 女：2	
	トイレ(10) きなり館	男：大1、小2 / 女：5 多機能：1	
	トイレ(11) 旧JAショップ 子育て支援施設	男：大1、小2 / 女：2 授乳室1 おむつ交換台1(朝市横トイレ)	※おむつ交換台は24時間利用可能
情報発信機能	宿泊施設、温泉施設、キャンプ場受付等	観光パンフレット等配架	
地域連携機能	温泉施設、レストラン、売店、杉岡華邨記念館	温泉、飲食、売店	
	キャンプ場、ロッジ、コテージ、野外ステージ	宿泊、イベント会場	
広域防災拠点機能	通信設備	通信環境(電話)あり 公衆電話1	※公衆電話は24時間利用可能

8. 道の駅整備のコンセプト（案） ①道の駅に必要な機能

黒字：既存の内容 青字：既存の改修 赤字：新たな導入

道の駅の基本 3機能	休憩機能	24時間利用可の駐車場、トイレ、授乳室（子育て支援施設）、ベンチ
	情報発信機能	近隣市町村も含めた道路・地域情報コーナー、観光案内所、Wi-Fi環境、道路案内・道の駅施設案内
	地域連携機能	地元特産品販売所（朝市）、レストラン、カフェ
防災機能	広域防災拠点機能	ヘリポート、給水施設、防災倉庫、非常用発電機、通信設備、防災トイレ
+		
交流・誘客機能	誘客機能	温泉施設、キャンプ施設、スポーツ施設 売店、特産品販売
	アクティビティ機能	芝生広場、テニスコート、アスレチック
	滞在機能	宿泊施設、キャンプ場、RVパーク（車中泊駐車場）
利便性機能	サービス向上機能	販売機能（小売店、カフェ、チャレンジショップ等）
		利便機能（コインランドリー等）

8. 道の駅整備のコンセプト（案） ②基本コンセプト・基本方針

第3次下北山村総合計画

（基本理念） “やすらぎ” と “おもてなし” を感じられる拠点

目的

- 観光交流拠点として、誘客・滞在を促進させる仕掛けづくり（満足度の向上・リピーターの確保）
- アウトドア、フィッシングなど村内や近隣市町村の魅力を発信できる場づくり
- 観光客や周辺住民の利便性の向上
- 広域的な防災拠点としての機能性向上

村の課題
と
方向性

道路状況・観光周遊
の情報発信不足

↓
地域観光のゲート
ウェイとしての
情報発信・周遊促進

キャンプ・フィッシング・
スポーツが盛んであるが
限定的

↓
アウトドア全般が盛んな
強味のPR強化

人口減少・
少子高齢化、
利用者の減少

↓
交流人口
の増加

6次産業化への
取り組み

↓
近隣市町も含めた
特産品の開発・販売

山間地で唯一広い
平坦地とヘリポート
を有する立地

↓
広域防災拠点と
しての整備

道の駅基本コンセプト

スポーツ・キャンプ・フィッシングのアウトドアビレッジ
～吉野と熊野をつなぐ観光拠点～

基本
方針

村の玄関口となる観光交流
広域拠点として、来訪・滞
在を促進させ、満足度向
上・リピーターの確保を図
る場

アウトドア、フィッシ
ング、スポーツなど村
やスポーツ公園、近隣
市町村の魅力を発信で
きる場

利用者や周辺住民に
とって便利で、つい
行きたくなる場

安心・安全な広域的
な防災拠点となる場

道の駅
の
機能

基本機能

- ・休憩機能
- ・情報発信機能
- ・地域連携機能

交流・誘客機能

- ・誘客機能
- ・アクティビティ機能
- ・滞在機能

利便性機能

- ・サービス向上機能

防災機能

- ・広域防災拠点機能

下北山村および近隣市町村の活性化

8. 道の駅整備のコンセプト（案） ③整備イメージ全体図（新規機能）

赤字：令和7年度整備 黄字：令和8年度整備 緑字：令和9年度整備

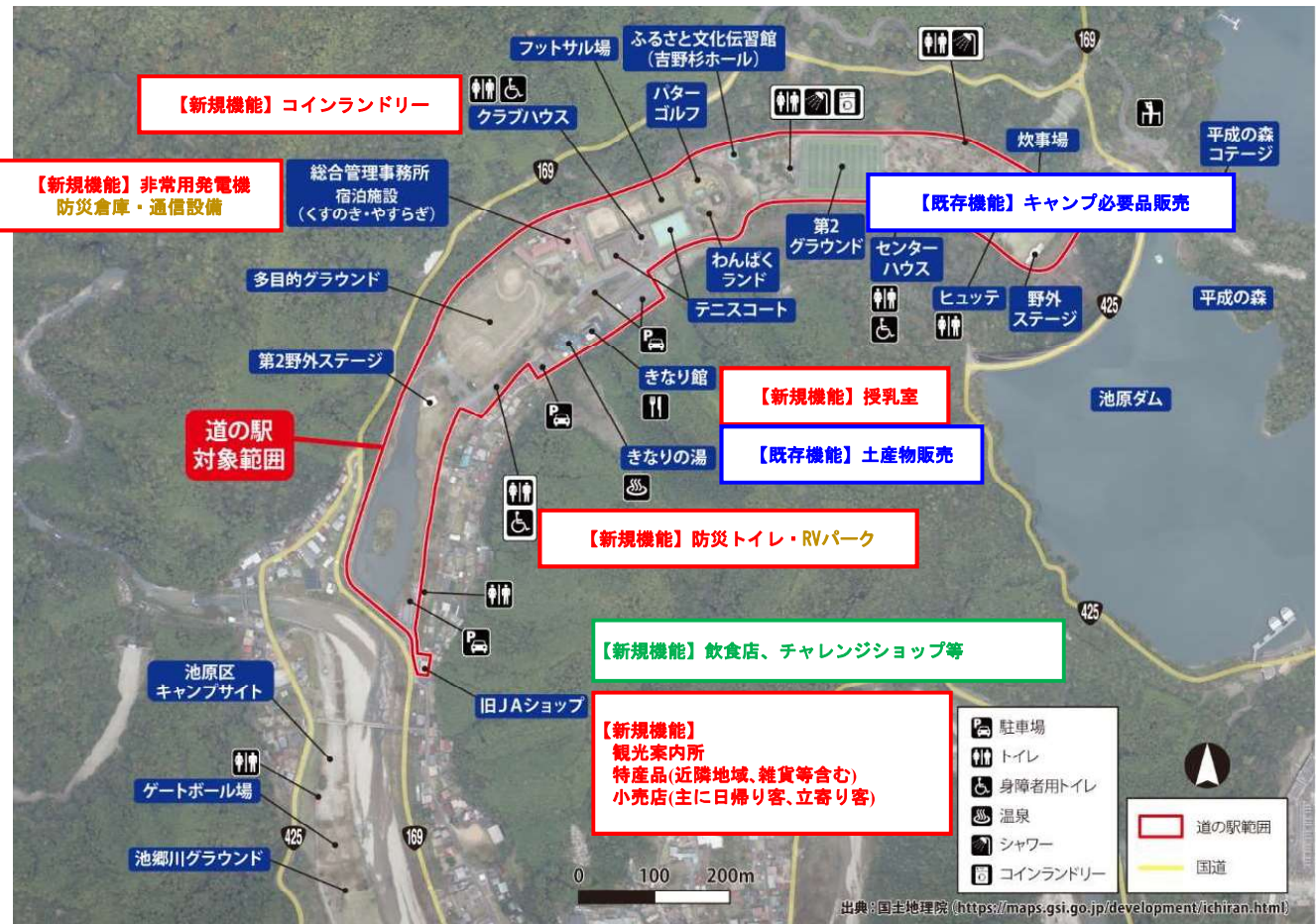
・授乳室（イメージ）



・施設案内サイン（イメージ）



・特産品販売所（イメージ）



・道の駅案内サイン（イメージ）



・観光案内所（イメージ）



・コインランドリー（イメージ）



8. 道の駅整備のコンセプト（案）④整備イメージ全体図（防災機能）

・防災倉庫（食料、飲料水、毛布等）



・非常用発電機（イメージ）



・災害時ヘリポート（グラウンド）



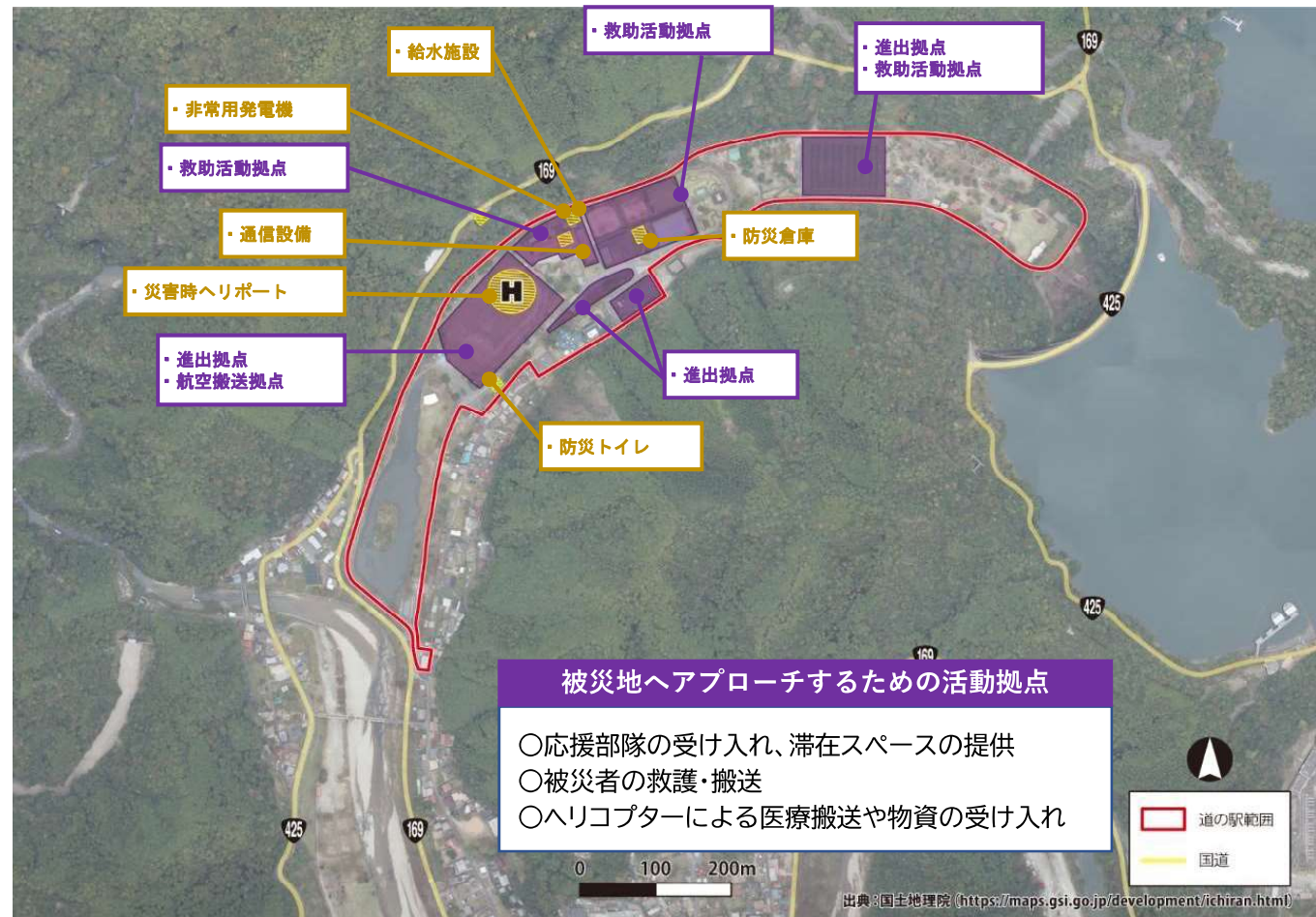
・給水施設（イメージ）



・防災トイレ（イメージ）



・通信設備（イメージ）



注：進出拠点とは、最初に被災地に進出する時の目的となる地点

8. 道の駅整備のコンセプト（案） ④整備イメージパース

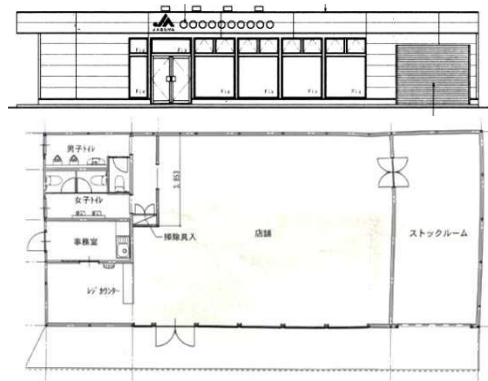


8. 道の駅整備のコンセプト（案）

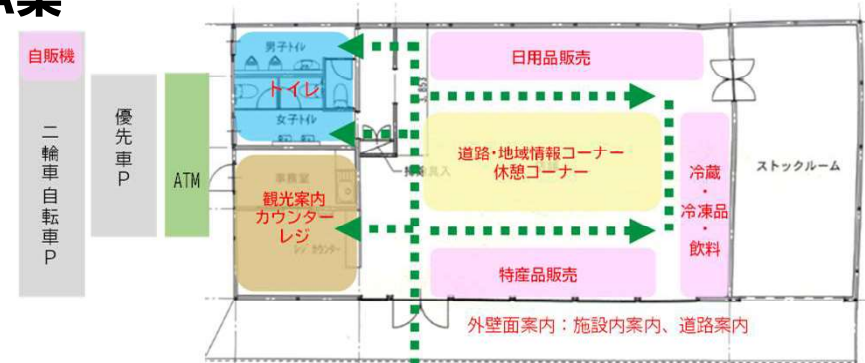
⑤屋内配置ゾーニング図

21

平面図
現況写真

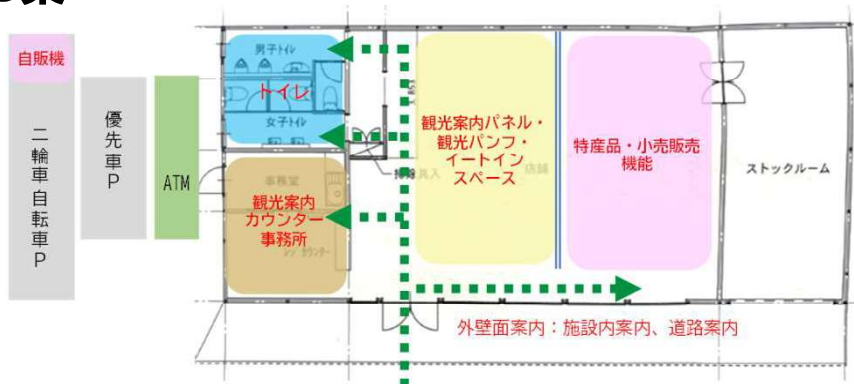


A案



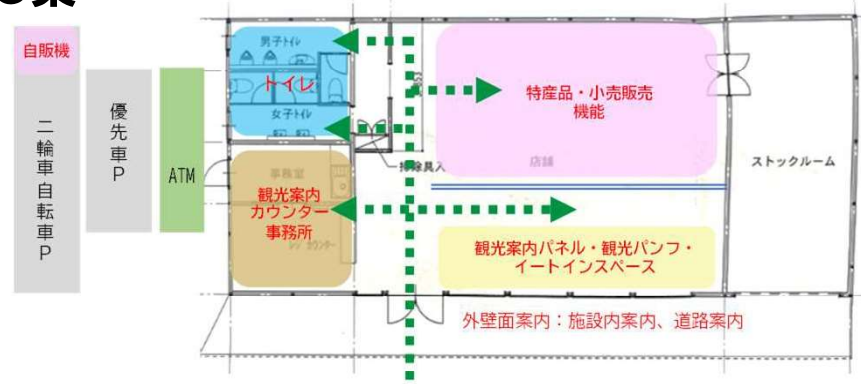
- 入口近くに観光案内を確保、中央に情報と休憩スペース、壁際に小売店スペースを配置
- 屋内施設は小売店営業時間（7～20時）とする（又は小売店スペースは全て自販機として、24時間営業とすることも考えられる）

B案



- 入口近くに観光案内と休憩スペースを確保、右奥に特産品・小売販売店スペースを配置
- 観光案内スペースと特産品・小売販売店スペースを区切ることで、観光案内スペースを24時間営業できる

C案



- 入口近くに観光案内と休憩スペースを確保、奥に特産品・小売販売店スペースを配置
- 観光案内スペースと特産品・小売販売店スペースを区切ることで、観光案内スペースを24時間営業できる

9. 整備・管理運営方法

②事業スケジュール

年 度	令和 6 (2024)年				令和 7 (2025)年				令和 8 (2026)年				令和 9 (2027)年			
設 計					第1期				第2期				第3期			
施 工							第1期				第2期				第3期	
管理運営																
道の駅登録					6月登録 予定											
道の駅開業									春開業 予定							